

令和5年度 学校評価(案)

愛南町立一本松小学校

[ 評価基準 A:目標を達成 B:目標値の8割以上達成 C:目標値の6割以上達成 D:目標値の6割未満 ] 【アンケート結果 4:そう思う 3:ややそう思う 2:あまわ思わない 1:思わない】

| 重点<br>目標         | 番号  | 評価指標                              | 目標値   | 期間  | 評価        | ◇考察 ◆改善方策   | 評価資料      | アンケート結果(%) |      |      |   | 肯定率(%) | 平均(%) |  |
|------------------|-----|-----------------------------------|---|-----|-----------|---|-----------|------------|------|------|---|--------|-------|--|
|                  |     |                                   |   |     |           |   |           | 4          | 3    | 2    | 1   |        |       |  |
| 1<br>確かな学力の定着と向上 | (1) | 個に応じた指導と基礎学力の定着・向上ができたか。          | 教職員、児童の90%以上が肯定している。  | 中間期 | B         | ◇昨年度のこの時期と同様に教職員、児童ともに目標値を下回っている。教職員は、1単位時間毎の評価及び単元テストの結果から学力の定着に手ごたえを感じていない。また、児童の中にも自身の学力が身に付いていないと感じている割合が増えている。<br>◆まず、学級担任が児童に学習への意欲や目標を持たせ、集団として達成感を味わわせる学級経営を行う。そして、各教科担当者は、学習のねらいに沿った指導で、どんな学力が身に付いたか児童に自覚させる手だてを図る。      | 教職員アンケート① | 9.1        | 63.6 | 27.3 | 0.0   | 72.7   | 78.4  |  |
|                  |     |                                   |   | 年度末 |           |   | 児童アンケート②  | 43.4       | 40.6 | 13.2 | 2.8   | 84.0   |       |  |
|                  | (2) | ICTの活用と深い学びへの授業改善に努めたか。           | 教職員、児童、保護者の90%以上が肯定している。<br>対話的な学びの実施率が90%以上(年度末のみ)   | 中間期 | B         | ◇1人1台端末を用いた学習活動が児童、保護者に浸透してきたことから、それぞれの肯定割合は高い。一方で、ICTの活用場面や方法を指導者が適切に判断できていないことがあり、依然として試行錯誤しながらの段階のため、教職員の肯定割合がやや伸び悩んでいる。<br>◆今後は、研修会等を通して効果的かつ具体的なICT活用指導法の共通理解を図り、教育的な視点でその成果を共有することで、より深い学びの充実に努める。                          | 教職員アンケート② | 0.0        | 83.3 | 16.7 | 0.0   | 83.3   | 86.9  |  |
|                  |     |                                   |   | 年度末 | 児童アンケート③  |   | 81.3      | 13.1       | 4.7  | 0.9  | 94.4  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 児童アンケート④  |   | 37.7      | 41.5       | 17.9 | 2.8  | 79.2  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 保護者アンケート② |   | 51.9      | 38.9       | 9.3  | 0.0  | 90.8  |        |       |  |
|                  | (3) | 学ぶ楽しさと振り返りの重視による満足感を感じられる授業を行ったか。 | 教職員、児童、保護者の90%以上が肯定している。  | 中間期 | B         | ◇児童、保護者の肯定割合は低くないが、教職員の肯定割合が極端に低い。これは、1単位時間における指導のねらいの設定が児童の実態に即していないことや、授業中や振り返り活動の段階で想定していた反応や結果が見られなかったためと思われる。<br>◆研修会や個別指導を効果的に活用しながら、教職員個々の学習評価に対する正しい知識を定着させるとともに、授業研究を通して多様な学習指導の在り方を考える。                                 | 教職員アンケート③ | 8.3        | 50.0 | 41.7 | 0.0   | 58.3   | 78.6  |  |
|                  |     |                                   |   | 年度末 | 児童アンケート①  |   | 46.2      | 38.7       | 12.3 | 2.8  | 84.9  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 保護者アンケート① |   | 44.4      | 48.1       | 5.6  | 1.9  | 92.5  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 教職員アンケート③ |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0   |        |       |  |
|                  | (4) | 家庭学習の習慣化に努めたか。                    | 教職員、児童、保護者の90%以上が肯定している。<br>学年ごとに設定した家庭学習時間の達成率が80%以上(←振り返りカードにおける実施率 中間期・年度末)  | 中間期 | B         | ◇児童と教職員の肯定割合は目標値に近いが、それに比べて保護者の肯定割合が低い。これは、両者の感覚に差が生じていることを表している。学年毎の目標時間は設定されているが、それを十分共有できていないことや、学年によって徹底できていないことが考えられる。<br>◆よりよい家庭学習への取組み方について、学力向上主任を中心に組織的な指導を考える。また、学校だよりや学年通信で、その取組を広めることや保健だよりで家庭生活の改善に向けた啓発を継続的に行う。     | 教職員アンケート④ | 9.1        | 72.7 | 18.2 | 0.0   | 81.8   | 77.5  |  |
|                  |     |                                   |   | 年度末 | 児童アンケート⑤  |   | 41.1      | 44.9       | 10.3 | 3.7  | 86.0  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 保護者アンケート③ |   | 14.8      | 50.0       | 29.6 | 5.6  | 64.8  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 教職員アンケート④ |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0   |        |       |  |
|                  | (5) | 学年の発達段階に応じた読書活動の推進をしたか。           | 教職員、児童、保護者の90%以上が肯定している。<br>各自の読書目標達成率が80%以上(←振り返りカードにおける実施率 中間期・年度末)   | 中間期 | C         | ◇昨年度と比較しても、教職員、児童、保護者の肯定割合に大きな変化はない。児童の読書離れが進んでいることもあるが、図書室における蔵書のラインナップや読書空間の改善に大きな変化がないこと、また、学校全体での目標を持たせた読書活動が推進されていないことが大きな理由である。<br>◆個々の児童の読書意欲を高めるだけに頼らず、快適な読書スペースの改善に取り組むことや、委員会を中心に継続的な図書の紹介を進めたり、学年間での読書活動の交流等を試みる必要がある。 | 教職員アンケート⑤ | 0.0        | 54.5 | 45.5 | 0.0   | 54.5   | 55.7  |  |
|                  |     |                                   |   | 年度末 | 児童アンケート⑥  |   | 43.9      | 24.3       | 23.4 | 8.4  | 68.2  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 保護者アンケート④ |   | 16.7      | 27.8       | 38.9 | 16.7 | 44.5  |        |       |  |
|                  |     |                                   |   |     | 教職員アンケート⑤ |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0   |        |       |  |
|                  | 中間期 | 学校運営協議会の所見                        | 児童の学力について、定着状況について、客観的な資料をもとに知りたい。単元テストは何%で◎なのかなど目標値を設定して児童の伸びを確認するのがよいのではないか。児童と教職員との評価のずれが大きい。教職員は自分たちの実践に自信を持って、もっと良い評価をしてもいいのではないか。 |     |           |   | 学校の対応     |            |      |      | 所見の中にある児童の学力については、県学力テストや単元テストなど客観的な評価材料はもちろん大切であり、それも判断材料にしている。しかし、この中に入れていないので、年度末には検討したい。また、学校運営協議会委員から出た「教職員ももっと自信を持って評価してほしい」という意見は全体に伝えたい。改善策については、しっかりと共有して各学年において実践化していく。 |        |       |  |
|                  | 年度末 |                                   |   |     |           |   |           |            |      |      |   |        |       |  |

| 重点<br>目標          | 番号         | 評価指標   | 目標値                         | 期間        | 評定        | ◇考察 ◆改善方策   | 評価資料      | アンケート結果(%) |      |      |       | 肯定率(%) | 平均(%) |
|-------------------|------------|--|-----------------------------|-----------|-----------|---|-----------|------------|------|------|-------|--------|-------|
|                   |            |  |                             |           |           |   |           | 4          | 3    | 2    | 1     |        |       |
| 2<br>豊かな心を育む教育の推進 | (6)        | 教育目標「思いやりの心」「たくましい心」の浸透に努めたか。  | 教職員、児童の90%以上が肯定している。        | 中間期       | A         | ◇教職員、児童ともに肯定的な評価が多かった。しかし、教職員の肯定率が100%に対して、児童の肯定率が81.9%と、認識の違いが生じている。<br>◆様々な活動の中で教育目標「思いやりの心」「たくましい心」を意識させ、児童の「思いやりの心」や「たくましい心」が見られた場面を見取り、児童の活動の中で、「思いやりの心」や「たくましい心」や、児童の自己肯定感を高めるような声掛けをしたり、子供たちの良さが生かされる場の確保や互いのよさを認め合う場づくりに努める。  | 教職員アンケート⑥ | 41.7       | 58.3 | 0.0  | 0.0   | 100.0  | 94.0  |
|                   |            |  |                             |           |           |   | 児童アンケート⑬  | 58.9       | 29.0 | 5.6  | 6.5   | 87.9   |       |
|                   |            |  |                             | 年度末       | 教職員アンケート⑥ |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0   | 0.0    |       |
|                   |            |  |                             |           | 児童アンケート⑬  |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0   |        |       |
|                   | (7)        | 道徳科授業づくりの工夫をしたか。   | 教職員の90%以上が肯定している。           | 中間期       | C         | ◇道徳の授業に対して自信を持って指導することができていないことが、肯定率の低さにつながっているのではないかと考えられる。<br>◆道徳の授業づくりについて、教材研究を行い、授業づくりの工夫に努める。また、校内研修等を通して、道徳の指導技術を高めていく。  | 教職員アンケート⑦ | 10.0       | 60.0 | 30.0 | 0.0   | 70.0   | 70.0  |
|                   |            |  |                             |           |           |   | 年度末       | 教職員アンケート⑦  | 0.0  | 0.0  | 0.0   | 0.0    | 0.0   |
|                   | (8)        | 「気づき・考え・実行する」青少年赤十字活動の継続に努めたか。   | 教職員の90%以上が肯定している。           | 中間期       | A         | ◇昨年度に続き、青少年赤十字活動の視点に立った教育活動を継続する事ができた。<br>◆今後とも、青少年赤十字活動の視点に立った教育活動を継続していく。   | 教職員アンケート⑧ | 8.3        | 83.3 | 8.3  | 0.0   | 91.6   | 91.6  |
|                   |            |  |                             |           |           |   | 年度末       | 教職員アンケート⑧  | 0.0  | 0.0  | 0.0   | 0.0    | 0.0   |
|                   | (9)        | 返事・あいさつ・後始末の徹底に努めたか。   | 教職員、児童、保護者、地域の90%以上が肯定している。 | 中間期       | A         | ◇教職員、保護者、地域ともに高い肯定割合を示しており、目標値を上回っている。学校生活の中では、大きな声で挨拶をしたり、返事をしたりすることができる児童が増えてきている。しかし、家庭での返事についての肯定率が9割を超えていないので、今後の課題として取り組んでいく必要がある。<br>◆今後も全教育活動を通して、返事・あいさつ・後始末について継続的に指導していく。また、挨拶や返事について「いつでも、どこでも、だれにでも」を合言葉に児童に呼び掛けたり、学校だより等で発信したりすることで、学校・地域・家庭で連携して指導し、返事や挨拶の習慣化に努める。 | 教職員アンケート⑨ | 25.0       | 66.7 | 8.3  | 0.0   | 91.7   | 95.9  |
|                   |            |  |                             |           |           |   | 児童アンケート⑦  | 83.0       | 16.0 | 0.0  | 0.9   | 99.0   |       |
|                   |            |  |                             |           |           |   | 児童アンケート⑧  | 65.4       | 31.8 | 1.9  | 0.9   | 97.2   |       |
|                   |            |  |                             |           |           |   | 保護者アンケート⑤ | 42.6       | 51.9 | 5.6  | 0.0   | 94.5   |       |
| 保護者アンケート⑥         |            |  |                             |           |           |   | 33.3      | 55.6       | 9.3  | 1.9  | 88.9  |        |       |
| 地域アンケート①          |            |  |                             |           |           |   | 75.0      | 25.0       | 0.0  | 0.0  | 100.0 |        |       |
| 年度末               |            |  |                             | 教職員アンケート⑨ | 0.0       |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0   |        |       |
|                   |            |  |                             | 児童アンケート⑦  | 0.0       |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  |       |        |       |
|                   |            |  |                             | 児童アンケート⑧  | 0.0       |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  |       |        |       |
|                   |            |  |                             | 保護者アンケート⑤ | 0.0       |   | 0.0       | 0.0        | 0.0  | 0.0  |       |        |       |
| 中間期               | 学校運営協議会の所見 | 児童は地域でもよく挨拶をしてくれる。<br>新型コロナウイルス感染症の流行でマスクをしている時期が長かったが、マスクをしなくてもよくなり、顔の表情がよく見えるようになった。<br>夏休みの陸上練習に行くとときも挨拶をしてくれている。 |                             |           | 学校の対応     | 学校運営協議会委員の所見から児童が地域においても挨拶をしていることが分かった。挨拶は人と人をつなぐ基本であることをこれからも大切に指導し続ける。<br>評価の高かった(6)(8)(9)の項目については、今後も取組を継続していく。<br>道徳の授業づくりについては、教職員が自信を持って指導できるよう改善策を具体的に研修で取り上げ、実践していく。  |           |            |      |      |       |        |       |
|                   |            |  |                             |           |           | 年度末   |           |            |      |      |       |        |       |

| 重点<br>目標               | 番号         | 評価指標  | 目標値                      | 期間  | 評価 | ◇考察 ◆改善方策   | 評価資料   | アンケート結果(%) |      |      |     | 肯定率(%) | 平均(%) |
|------------------------|------------|---|--------------------------|-----|----|---|--|------------|------|------|-----|--------|-------|
|                        |            |   |                          |     |    |   |  | 4          | 3    | 2    | 1   |        |       |
| 3<br>人権を尊重する教育と生徒指導の徹底 | (10)       | 自他の命を大切にする心の育成に努めたか。  | 教職員、保護者の90%以上が肯定している。    | 中間期 | A  | ◇教職員、保護者ともに高い肯定割合を示しており、目標値を上回っている。道徳科を中心とし、全教育活動を通じた児童への関わりにおいて、「自分も周りの人も大切にする」意識付けができていたと考えられる。<br>◆今後も全教育活動を通して、「自分も人も大切にする」ことを継続して指導していく。児童の活動の中で、自分や周りの児童を大切にできた場面では、その行動を褒め、互いに大切に、認め合う集団づくりに努める。 | 教職員アンケート⑩  | 33.3       | 66.7 | 0.0  | 0.0 | 100.0  | 98.2  |
|                        |            |   |                          |     |    |   | 保護者アンケート⑧  | 64.8       | 31.5 | 1.9  | 1.9 | 96.3   |       |
|                        |            |   |                          | 年度末 |    |   | 教職員アンケート⑩  | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
|                        |            |   |                          |     |    |   | 保護者アンケート⑧  | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0    |       |
|                        | (11)       | 人間関係づくりを核とした生徒指導の充実と規範意識の育成に努めたか。   | 教職員、児童、保護者の90%以上が肯定している。 | 中間期 | A  | ◇教職員、児童、保護者とも、肯定割合が高く、目標値に達している。教育相談やなかよしアンケートにより、児童の実態を把握し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けて、共通理解を深めたことが高評価につながっている。<br>◆今後も児童一人一人に寄り添い、児童のわずかな変化も見逃さないよう、情報交換、共通理解に努める。  | 教職員アンケート⑪  | 8.3        | 83.3 | 8.3  | 0.0 | 91.6   | 93.1  |
|                        |            |   |                          |     |    |   | 児童アンケート⑪   | 84.1       | 9.3  | 2.8  | 3.7 | 93.4   |       |
|                        |            |   |                          |     |    |   | 保護者アンケート⑨  | 68.5       | 25.9 | 3.7  | 1.9 | 94.4   |       |
|                        |            |   |                          | 年度末 |    |   | 教職員アンケート⑪  | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
|                        |            |   |                          |     |    |   | 児童アンケート⑪   | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0    |       |
|                        |            |   |                          |     |    |   | 保護者アンケート⑨  | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0    |       |
|                        | (12)       | 「挑戦を楽しむ」ことができる支持的な集団づくりに努めたか。   | 教職員の90%以上が肯定している。        | 中間期 | B  | ◇教職員の肯定割合が83%と目標値に達していない。学校目標にある支持的風土づくりに努めたが十分に行えていない。<br>◆ほかほかカードの活用や終わりの会での友達の良いところの発表など、互いを認め合える場を意図的に設定する。また、2学期は、運動会、陸上大会など大きな行事がある。その中で、めあてを持って活動に取り組みさせることで、児童にできた喜びを味わわせたり、自信を持たせたりする。         | 教職員アンケート⑫  | 25.0       | 58.3 | 16.7 | 0.0 | 83.3   | 83.3  |
|                        |            |   |                          | 年度末 |    |   | 教職員アンケート⑫  | 0.0        | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
| 中間期                    | 学校運営協議会の所見 | 大変高い評価になっていて素晴らしい。今後も先生方の力を発揮してほしい。(12)については、Bなので、2学期以降はさらに充実させてほしい。(12)について、より具体的な評価項目を設定してほしい。児童にアンケートを取ったり、評価カードを作ったりするなどして、目標を設定する。 |                          |     |    | 学校の対応   | 評価の高かった(10)・(11)の項目については、現在の取組をさらに推進していく。(12)については、所見を生かして、児童一人一人が目標設定をし、ワークシートに書かせる。また、自己評価をしたり、教師が評価をしたりして満足度や達成度を数値化する。 |            |      |      |     |        |       |
| 年度末                    |            |   |                          |     |    |   |  |            |      |      |     |        |       |

| 重点<br>目標                    | 番号         | 評価指標   | 目標値                      | 期間  | 評価        | ◇考察 ◆改善方策  | 評価資料  | アンケート結果(%) |       |      |     | 肯定率(%) | 平均(%) |
|-----------------------------|------------|--|--------------------------|-----|-----------|--|---|------------|-------|------|-----|--------|-------|
|                             |            |  |                          |     |           |  |   | 4          | 3     | 2    | 1   |        |       |
| 4<br>健康・<br>安全<br>教育の<br>推進 | (13)       | 運動の生活化と体力向上を推進したか。   | 教職員、児童の90%以上が肯定している。     | 中間期 | B         | ◇教職員の肯定率100%に対して、児童は77.5%と意識のずれが生じている。身体を動かすことが好きな児童が多いが、昼休みには決まった児童しか外で遊んでいない。<br>◆昼休みに外にはいるが座っている児童も多いので、身体を動かす楽しみや大切さを学級担任が指導していく。また、体力アップ推進計画のもとに体育科を中心として、児童の体力向上に努める。  | 教職員アンケート⑬   | 0.0        | 100.0 | 0.0  | 0.0 | 100.0  | 88.8  |
|                             |            |  |                          |     |           |  | 児童アンケート⑭  | 60.7       | 16.8  | 17.8 | 4.7 | 77.5   |       |
|                             |            |  |                          | 年度末 | 教職員アンケート⑬ |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  | 0.0 | 0.0    |       |
|                             |            |  |                          |     | 児童アンケート⑭  |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  | 0.0 |        |       |
|                             | (14)       | 避難訓練や防災教育の充実と判断力・実践力の育成に努めたか。                                      | 教職員、児童の90%以上が肯定している。     | 中間期 | A         | ◇交通安全教室や避難訓練の実施により、全体的に高い肯定割合になっている。避難訓練の際に児童一人一人が素早く身を守る行動ができるなど、訓練や学習の成果が出ている。<br>◆今後も計画的に避難訓練を実施し、継続した安全指導を行っていく。また、地域との連携を充実させ、安全教育の推進を図っていく。  | 教職員アンケート⑭   | 8.3        | 83.3  | 8.3  | 0.0 | 91.6   | 95.8  |
|                             |            |  |                          |     |           |  | 児童アンケート⑱  | 85.0       | 15.0  | 0.0  | 0.0 | 100.0  |       |
|                             |            |  |                          | 年度末 | 教職員アンケート⑭ |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  | 0.0 | 0.0    |       |
|                             |            |  |                          |     | 児童アンケート⑱  |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  | 0.0 |        |       |
|                             | (15)       | 早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣づくりを推進したか。   | 教職員、児童、保護者の90%以上が肯定している。 | 中間期 | B         | ◇児童の肯定率84%に対して、教職員の肯定率が66%と低くなっている。教職員は健康観察の結果から児童の生活の実態を把握しているため、児童・保護者との認識のずれが生じている。しかし、児童の生活習慣においては、家庭での生活習慣づくりが定着してきている。<br>◆基本的な生活習慣は、学校と家庭、地域が一体となって取り組む必要がある。保健だより等を活用して、家庭や地域に現状を発信することから改善に努める。学級指導を通して、食事の大切さや、好き嫌いをなく食べることを指導する。また、自ら生活習慣づくりや早寝早起きを意識させていく。 | 教職員アンケート⑮   | 16.7       | 50.0  | 33.3 | 0.0 | 66.7   | 76.8  |
|                             |            |  |                          |     |           |  | 児童アンケート⑨  | 57.9       | 26.2  | 11.2 | 4.7 | 84.1   |       |
|                             |            |  |                          |     |           |  | 保護者アンケート⑦   | 48.1       | 31.5  | 20.4 | 0.0 | 79.6   |       |
|                             |            |  |                          | 年度末 | 教職員アンケート⑮ |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  | 0.0 | 0.0    |       |
| 児童アンケート⑨                    |            |  |                          |     | 0.0       |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  |     |        |       |
| 保護者アンケート⑦                   |            |  |                          |     | 0.0       |  | 0.0   | 0.0        | 0.0   | 0.0  |     |        |       |
| 中間期                         | 学校運営協議会の所見 | (15)については「推進したか」なので、数値目標による評価ではないのではないか。主に家庭での指導になる。学校は啓発をしていけばよい。 |                          |     |           | 学校の対応  | 所見の通り、「推進したか」についての評価である視点を共有していきたい。また、改善策の実践とともに教職員も一緒に遊ぶという心のゆとりを持ちたい。運動面については学力面と同じように個人差が大きくなっている。外遊びの推進を中心に呼びかけていく。 |            |       |      |     |        |       |
| 年度末                         |            |  |                          |     |           |  |   |            |       |      |     |        |       |

| 重点<br>目標                       | 番号   | 評価指標                    | 目標値  | 期間    | 評価 | ◇考察 ◆改善方策   | 評価資料  | アンケート結果(%) |      |     |     | 肯定率(%) | 平均(%) |
|--------------------------------|------|-------------------------|--|-------|----|---|---|------------|------|-----|-----|--------|-------|
|                                |      |                         |  |       |    |   |   | 4          | 3    | 2   | 1   |        |       |
| 5<br>教職員の<br>資質と<br>指導力の<br>向上 | (16) | 研修活動や自己研鑽の充実に努めたか。      | 教職員の90%が肯定している。  | 中間期   | A  | ◇初任者研修や人権・同和教育研修を軸に据えた校内研修を計画的に進めている。また、若年教員は、各々のスキルアップを目指して各種校外研修に参加したり、教職経験を積んだ先輩教員との情報交換等で指導力向上を目指している。<br>◆年間1人1回以上の研究授業の場で、多様な見方や考え方を吸収することはもちろん、校外の研修会等で学んだことを校内研修の場で共有したり、検討したりすることで相互の専門性を高める。                    | 教職員アンケート⑯   | 0.0        | 91.7 | 8.3 | 0.0 | 91.7   | 91.7  |
|                                |      |                         |  | 年度末   |    |   | 教職員アンケート⑯   | 0.0        | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
|                                | (17) | 児童・保護者へのぬくもりのある対応に努めたか。 | 教職員、保護者の90%が肯定している。  | 中間期   | A  | ◇教職員・保護者共に肯定割合が目標値を上回っている。これは、学校がホームページを通して毎日の学校生活を保護者に伝えたり、学校だより学年通信で学校からの声や思いを伝えたりしている成果が表れていると思われる。<br>◆今後も引き続き学校からの発信活動を行うとともに、教育活動における様々な場面や定期的な教育相談で児童の声に耳を傾け、組織的な対応に努める。   | 教職員アンケート⑰   | 36.4       | 54.5 | 9.1 | 0.0 | 90.9   | 91.7  |
|                                |      |                         |  |       |    |   | 保護者アンケート⑭   | 50.9       | 41.5 | 5.7 | 1.9 | 92.4   |       |
|                                |      |                         |  | 年度末   |    |   | 教職員アンケート⑰   | 0.0        | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
|                                |      |                         |  |       |    |   | 保護者アンケート⑭   | 0.0        | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0    |       |
|                                | (18) | ワーク・ライフバランスの推進に努めたか。    | 教職員の90%が肯定している。<br>毎月の超過勤務時間が80時間を超えない教職員の割合100%(中間期 年度末)  | 中間期   | B  | ◇教職員の多くは日々の仕事に追われているのが実態であるが、健康管理に留意しながら責任感を持って仕事に励んでいる。土日は十分な休息を確保している一方で、多くの教職員が勤務時間を大幅に超えて目標時間勤務している現状に変化はない。<br>◆それぞれが先を見通し、計画的な仕事を行うことや仕事に優先順位を設けて取り組む意識が必要である。また、管理職が学校行事やその他の教育活動における効率化を図る改善を進めるなどして、実働時間の短縮を目指す。 | 教職員アンケート⑱   | 50.0       | 41.7 | 8.3 | 0.0 | 91.7   | 91.7  |
|                                |      |                         |  | 年度末   |    |   | 教職員アンケート⑱   | 0.0        | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
|                                | (19) | 情報モラルやICT教育の推進に努めたか。    | 教職員の90%以上が肯定している。  | 中間期   | A  | ◇ICTを活用した授業では、その活用例や方法を指導するだけでなく、SNSによる生徒指導上の問題を未然に防ぐ情報モラルの指導や、児童の調べ活動やまとめ活動における著作権の侵害に関する指導について発達段階に応じて行っている。<br>◆夏休み前の学校運営協議会で出た意見を参考に、児童と保護者で家庭内のルールづくりについて改めて確認させた。また、総合的な学習や道徳、学級活動の学習活動を通して知識・技能と態度面の育成を図っていく。      | 教職員アンケート⑲   | 25.0       | 66.7 | 8.3 | 0.0 | 91.7   | 91.7  |
|                                |      |                         |  | 年度末   |    |   | 教職員アンケート⑲   | 0.0        | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0    | 0.0   |
|                                | 中間期  | 学校運営協議会の所見              | 80時間を超えている先生もいて、大変だと思う。<br>できるだけ、先生方の負担を減らしたい。<br>今言われている働き方改革は一律的ではないか。少々の時間オーバーはどの職種にも見られるものである。教職員の働き方改革はどのようにあるのがよいのか。 | 学校の対応 |    |   | 所見の中にあるように、働き方改革を勤務の超過時間だけで評価するのは危険である。時間だけでなく、働きがいや資質・能力の向上に取り組む時間等を考えなくてはならない。アフターコロナでいろいろな行事が復活しているが、その中で、本当に大切な行事、必要な教育活動とその方法について考えていかななくてはならない。 |            |      |     |     |        |       |
|                                | 年度末  |                         |  |       |    |   |   |            |      |     |     |        |       |

| 重点<br>目標                 | 番号   | 評価指標                         | 目標値   | 期間  | 評価    | ◇考察 ◆改善方策  | 評価資料   | アンケート結果(%) |      |           |     | 肯定率(%) | 平均(%) |     |     |     |
|--------------------------|------|------------------------------|---|-----|-------|--|--|------------|------|-----------|-----|--------|-------|-----|-----|-----|
|                          |      |                              |   |     |       |  |  | 4          | 3    | 2         | 1   |        |       |     |     |     |
| 6<br>組織・運営、<br>家庭・地域との連携 | (20) | サービス規律の遵守と責任ある校務の遂行に努めたか。    | 教職員の90%以上が肯定している。   | 中間期 | A     | ◇肯定割合は目標値を超えているが、よくできている4評価は低い。<br>◆今後も職員会や研修会等を活用して、サービス規律の遵守と綱紀粛正、不祥事の根絶について確認し、徹底を図る。   | 教職員アンケート⑳  | 33.3       | 58.3 | 8.3       | 0.0 | 91.6   | 91.6  |     |     |     |
|                          |      |                              |   | 年度末 |       |  |  | 教職員アンケート㉑  | 0.0  | 0.0       | 0.0 | 0.0    | 0.0   | 0.0 |     |     |
|                          | (21) | 家庭・地域と連携した教育活動と地域とともにある学校づくり | 保護者、地域住民の90%以上が肯定している。<br><br>毎月の学校だより、学年通信の発行、ホームページの更新の実施率が90%以上<br>(中間期・年度末)   | 中間期 | A     | ◇保護者、地域の肯定割合は、目標を大きく上回っている。これは、学校だよりや学級通信、学校HP等を通して、本校の教育活動を十分に発信することができたからだと思う。また、校外学習や交流学習等で、地域の方と関わりながら教育活動を進めることもできた。<br>◆2学期以降は、行動制限が緩和された中での運動会や学習発表会が開催される。引き続きwithコロナの視点に立って、学校と地域が連携した教育活動を推進していく。  | 保護者アンケート⑮  | 63.0       | 33.3 | 3.7       | 0.0 | 96.3   | 98.6  |     |     |     |
|                          |      |                              |   |     |       |  | 保護者アンケート⑰  | 45.3       | 52.8 | 0.0       | 1.9 | 98.1   |       |     |     |     |
|                          |      |                              |   |     |       |  | 地域アンケート④   | 100.0      | 0.0  | 0.0       | 0.0 | 100.0  |       |     |     |     |
|                          |      |                              |   |     |       |  | 地域アンケート⑤   | 100.0      | 0.0  | 0.0       | 0.0 | 100.0  |       |     |     |     |
|                          | (22) | 整理整頓等、美しく落ち着いた教育環境づくりに努めたか。  | 教職員の90%以上が肯定している。   | 中間期 | B     | ◇肯定割合は目標値を下回っている。校内の整理整頓をしたり、季節に合った掲示などで美しい教室環境を整えることに務めていたと思われるが、十分ではないところがあり、4評価が低くなったのではないと思われる。<br>◆2学期以降も引き続き教室内の整理整頓、季節に合った環境整備に努め、落ち着いた環境で児童が学習に取り組めるようにする。終わりの会で児童自身が自分の座席の回りやロッカーの中のチェックをするなど、教員だけでなく、児童自身に整理整頓委、美しい教室環境を整えようとする意識を持たせたい。 | 教職員アンケート㉒  | 16.7       | 66.7 | 16.7      | 0.0 | 83.4   | 83.4  |     |     |     |
|                          |      |                              |   |     |       |  | 年度末  |            |      | 教職員アンケート㉓ | 0.0 | 0.0    |       | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
|                          |      |                              |   |     |       |  | 保護者アンケート⑮  | 0.0        | 0.0  | 0.0       | 0.0 | 0.0    |       |     |     |     |
|                          |      |                              |   |     |       |  | 保護者アンケート⑰  | 0.0        | 0.0  | 0.0       | 0.0 | 0.0    |       |     |     |     |
| その他・自由意見                 | 中間期  | 学校運営協議会の所見                   | 大変良い結果である。地域の行事も復活してきたので、児童にも参加してもらって盛り上げてもらいたい。地域の行事に多くの児童が参加したり、見学に来たりしてほしい。地域行事の由来に詳しい方もいるので、総合的な学習の時間にゲストティーチャーとして活用してはどうか。 |     | 学校の対応 |  | 改善策について全教職員でしっかりと実践していく。また、地域の行事への参加については、その活性化のためにも学校ができることに対して協力体制を整えていく。所見にあるように、地域も行事の復活に向けて取り組んでいるがなかなかの状態である。学校と地域がWinWinの関係になるよう連携を図っていく。 |            |      |           |     |        |       |     |     |     |
|                          | 年度末  |                              |   |     |       |  |  |            |      |           |     |        |       |     |     |     |